

★ 共通テストまで **50日**



郡山東はここからが強い

最後まで絶対に伸びる

1/13(土)・14(日)の共通テストまで残り50日となりました(11/25現在)。3年生の中には、続々と返却される模試の結果を見て焦りや不安を感じている人も多いことでしょう。しかし、ここであきらめてしまえば、今まで何のために頑張ってきたのか分かりません。そして、**自分の成長した姿を見ずに終わってしまうこととなります。本当にそれでいいのでしょうか？**ぜひ、3年間の東高校での生活を思い返してみてください。積み重ねてきた努力の成果が、「数字」となって現れてくるのはこれからです。伝統的に、最後までやり抜いた東高生は、実力を伸ばして必ず良い結果を出していきます。今年の3年生も、自分の可能性を信じて最後までやり抜いてください！

特集1 共通テスト50日前にすべきこと

1 受験勉強の追い込みをかける

■ 「基本問題」の正解率を上げ合否判定を変える

共通テストで一番ダメージが大きく、合否結果につながる危険性が高いのは、全体の正解率が高くなる「基礎・基本の問題」で無駄な失点をする事です。高い思考力や判断力を求められる「難問」は誰にとっても正解しにくく正解率が低くなるため、実は差が付きにくいのです。ゆえに、**あやふやな基礎事項は早期に再確認し確実に定着させておくことが大事です。**この秋の模試でも、取りこぼしている基礎問題がたくさんあるはず。各科目で、こうした基礎問題を、あと2、3問ずつでも得点できるようになると、5教科7科目の合計点では、軽く50点以上は上昇するはず。今後、本番に向けてこの考え方は重要です。これで、本番での合否判定が確実に1段階は変わります。

■ 模試や演習は **復習してこそ効果あり**

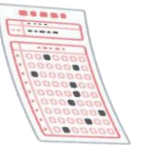
「模試」と授業や課外での共通テスト対策演習は、徹底的な復習があってこそ効果を発揮します。特に、正解率が低かった分野に関しては、時間をかけてしっかり復習すべきです。特に、**正解の根拠を明確にし、本文のどこに着目すべきだったのか等を細目にチェックして理解していくことで、求められる「読解力」を高めます。**次からは「予測」しながら問題文を読めるようになります。



■ 理社 300点の追い込み & 英数国のレベル上げ

文系・理系を問わず、理科と地歴公民(合計300点)は向上の余地が十分に残されていて、残り時間での上昇が最も期待できる教科です。勉強量に比例して得点が上昇すると言っても、過言ではありません。今すぐ家庭での勉強量を増加させるべきで、やらずに終わったら本当にもったいないのです。ただし、「英数国」の勉強時間を減らしては何の意味もありません。今後、英数国(合計600点)の得点が上がらなければ、いくら理社を強化しても、合格ラインには到達できません。

2 受験準備を年内から進めておく



■ 12月の「三者面談」で志望校を絞り込む

本校の12月の「三者面談」では、生徒の希望とこれまでの模試での合格判定等を参考に、最終的な「出願校の絞り込み」をしています。

● 国公立大受験者 適切な出願先の組み合わせを作る

国公立大志望者に対しては、共通テストの結果による「合否判定」や「難易度」に応じた出願先の組み合わせのパターン(「前期日程」+「後期(・中期日程)」)を以下のように設定するよう指導しています。そして、共通テスト後にはあらかじめ設定した組み合わせを基にして実際の出願を行います。その時になって慌てることのないよう、年内に担任や保護者と話し合い準備を進めておきましょう。

- ・パターン1 共通テストで **目標点を取れた場合** (第1志望 A~B判定)
- ・パターン2 共通テストで **目標点を少し下回った場合** (第1志望 C判定付近)
- ・パターン3 共通テストで **目標点を大きく下回った場合** (第1志望 D判定以下)

● 私立大受験者 綿密な受験計画を作る

各大学の「募集要項」で、受験科目、出願期間・試験日、入学手続きの期限、会場、募集定員等を確認しましょう。そして、自分の「実力」と大学の「難易度」を考慮し、「日程的」にも「経済的」にも無理のない受験計画を立てておきましょう。「共通テスト利用型」も有効ですが、共通テストで失敗すると挽回不可能です。ゆえに、各大学の「最大募集定員」の日程に確実に出願することを勧めます。

● 国公立大志望者も私立大の受験先を検討する

国公立大が第一志望の人でも私立大を併願受験するのはごく当たり前のことです。本命の国公立大入試に負担にならない試験日程と受験科目で、適切な難易度の大学選びがポイントです。「共通テスト利用型」も含め、早めに出願準備を始めましょう。

■ 願書・WEB出願の準備

+ 宿泊先予約・交通手段の確認

一般選抜入試の「願書」は各自で入手し、自分自身で出願手続きを行います。「WEB出願」も同様で、生徒が自分自身で行います。なお、宿泊が必要な場合は、早めに予約しておくことを勧めます。特に2月の私立大入試が集中する期間や、国公立大前期日程の前日(2/24、25)等は予約が取りにくくなるので注意しましょう。



1学年 職業観育成講話

11月11日(金) 5・6校時 実施

1学年を対象とした「職業観育成講話」を実施しました。県内各地の8つの事業所から講師をお招きし、経験に基づいた職業選択の在り方や職業観について、貴重なお話をうかがうことができました。

講師：全体会・分科会 矢田工業株式会社 成田英樹 様
 郡山消防署 工藤裕美 様 (随行 増子巧雅 様)
 まざっせKORIYAMA 次田喜正 様
 須賀川市文化交流部文化振興課 管野和恵 様
 分科会 郡山信用金庫 志田典子 様 (随行 荒井洋人 様)
 AGCエレクトロニクス株式会社 朝倉 哲 様、佐藤武美 様
 環境省 裏磐梯管理官事務所 黒江隆太 様
 福島コンピュータシステム株式会社 柚木由比乃 様
 (随行 五十嵐澄江 様、相澤 優 様)

内容：第Ⅰ部 全体会 パネルディスカッション
 働くことの意義や目的、SDGsへの取り組みなどについて、4名の方からお話を伺いました。

第Ⅱ部 分科会 8講座
 8講座に分かれ、それぞれの業種についてお話をいただきました。

【受講者の感想より】

第Ⅰ部 全体会

- ・仕事にはやりがいや苦勞もたくさんあるのだと思った。しかし、その苦勞を乗り越えてやりがいが増えたり、苦勞を苦勞だとは思わずに働くことによって、たくさんのやりがいを感じられたりするという話を伺い、仕事を続けることは重要なのだと思った。
- ・自分と同じような理由で夢を目指し、実際に叶えた人が今日目の前にいるという事実が、私に勇気を与えてくれた。不安なこともあるが、今回の講話を聴けたことで、前よりもこれからの人生が楽しみになった。
- ・地域の人々などのことを考えて、みなさん誇りをもって仕事をしていてすごいと思った。苦しいこともやりがいを感じることもあるけれど、苦しいことは、後から楽しいことをするために通る道と聞いて、その考え方ががんばってみたいと思った。
- ・SDGsへの取り組みなど、昔のやり方にとらわれずにどんどん新しいことに挑戦していくことで社会全体が良い方向へ進んでいくことができると実感しました。きっかけは何であれ、自分のやりたい職業に就くことはとても良いことで、その中でやりがいや苦勞を感じたり、周りの人と関わっていったりして1人の人間が成長していくのだと思った。私も自分が就く職業で成長したい。



【第Ⅰ部 全体会 パネルディスカッションの様子】

第Ⅱ部 分科会

- ① 郡山信用金庫 志田典子 様
 どの業務も地域の人と深く密着し関わっていて、常にお客様と接し、信頼関係を築くことができないとこの仕事はやっていけないと思った。この仕事は、たくさんの地域貢献をしていると感じた。
- ② 矢田工業株式会社 成田英樹 様
 実際に仕事をしている様子を動画で見せてもらうと、途方もない作業を何日も丁寧に行っている様子は本当にすごいなと思った。私たちが普段何気なく通っている橋も人の手によって一から作られたものだということを忘れて生活していきたい。
- ③ AGCエレクトロニクス株式会社 朝倉 哲 様、佐藤武美 様
 この純度の高いガラスは、世界で郡山を含め三社しか作れないと聞いて驚いた。使う人の利便性を考えて製作に力を入れている話を聴いて、かっこいいと思った。技術の高いガラスの製作に誇りをもって働いているところがすごいと感じた。
- ④ 郡山消防署 工藤裕美 様、増子巧雅 様
 女性職員の方で、産休などの支援制度が充実していることや、1日のスケジュール、災害の際の経験などについてお話をいただいた。東日本大震災の際、人手が十分とは言えない中、できる限りの救助活動や対応をしてくださったと聞いて、消防のお仕事の凄さが分かった。
- ⑤ まざっせKORIYAMA 次田喜正 様
 ふだんあまり自分の住んでいる地域について深く考えたことがなかったので、新しい視点で考えていきたい。職業観として、固定概念ではなく、考え次第で変わるとおっしゃっていた。自分に責任をもち、いろいろな視点で物事を考えていきたい。
- ⑥ 環境省 裏磐梯管理官事務所 黒江隆太 様
 人と自然の関係を大切にすることは簡単ではないことが分かった。今の環境を将来にも良い状態で保って、自然との共存を大切にしたい。
- ⑦ 須賀川市文化交流部文化振興課文化財係 管野和恵 様
 「文化財は過去からの贈り物」、「未来の人からの預かり物」という言葉が印象的だった。文化財を守ってくれる人たちがいなければ私たちが見ることすらできなかったものを最前線で守ってくれて、それが年を経るにつれ価値が上がると思うとすばらしい職業なんだと思った。本物のはにわの一部に触るという貴重な機会に巡り合え、とても楽しかった。
- ⑧ 福島コンピュータシステム株式会社 柚木由比乃 様、五十嵐澄江 様、相澤 優 様
 「意外なところに選択肢がある。視野は広く持つておこう」、「選んだ道を正解にする」この2つの言葉が印象的だった。カメラを使ったプログラミングや手拍子でプログラミングの要素を学ぶことができ、とても楽しかった。

